

地域が主体となったサルの被害防止対策

1 要旨

○下関市豊田町大字大河内地区では、サルによる農作物被害(水稲/果樹/野菜)の低減を図るため、地域ぐるみによる大型囲いわなの設置等を実施し、農家の生産意欲の向上を目指す。

2 地区の概要

地区名	下関市豊田町大字大河内地区
戸数	68戸(うち農家51戸)
耕作面積	田44.10ha
主な作物	水稲、野菜など
加害獣種	サル
対策実施年度	令和元年度



3 被害の状況と課題

- サルによる農作物被害(水稲、麦、大豆等)が頻発しており、農家の生産意欲が低下している。
- 侵入防止柵の設置や花火・爆竹による追い払いを集落が連携して試みているが、十分な効果が得られず根本的な対策が必要である。
- 放任果樹が集落内へサルを誘引している実情があり、地域ぐるみでの対策が必要である。

4 取組内容

(1) 推進体制の整備

- 被害防止活動に取り組むための推進体制の整備と役割の明確化
 - ・下関市：協議会の運営・地域アドバイザー
 - ・下関市鳥獣被害防止対策協議会：大型囲いわなの導入設置
 - ・下関農林事務所：鳥獣被害防止・駆除に関する助言
 - ・豊田猟友会：捕獲体制支援(銃器・わなによる駆除等)
 - ・大河内自治会：情報提供と被害対策への協力

(2) 活動方針の作成

○ 市当局と地域住民が連携し、「集落環境調査」を基に3か年の活動方針を作成した。

(3) 実践活動

- ① 生息地管理：遊休農地の保全管理、緩衝帯の設置
- ② 防護：防護柵の点検・補修・管理、放任果樹・農作物残渣の除去
- ③ 捕獲：箱わなの設置、銃猟の実施、サル用大型捕獲柵の設置



大型囲いわなの設置



囲いわなの適正管理

5 取組の成果

○ サル用大型囲いわなによる捕獲頭数は6頭であった。サルを目撃情報はあるものの、囲いわなでの捕獲頭数の増加には至らなかったが、防護等を徹底したため、被害額を減少することが出来た。

【被害額】

(千円)

区分	事業 実施前	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
サル	1,020	915	▲105	890	▲130	454	▲566

6 地区代表者のコメント

○ サル用大型捕獲柵の設置年度には捕獲があったものの、令和3年度以降については捕獲がされていない。サルによる被害は減少しているものの、引き続き被害軽減に向けた取り組みが必要と思う。イノシシやシカも同様であり、これからも集落全体で協力して取り組みたい。

7 今後の取組

○ 侵入防止柵の点検や被害発生場所の把握等、定期的に集落環境の調査を行い、被害の原因となる問題を解決していくことが重要となるため、策定した活動方針を基に集落全体で被害防止活動を行っていく必要がある。